Public information TOMAMAE

発行／北海道苫前町 編集／企画振興課広報広聴係

広報 とままえ

2014（平成26年）

2

No.630

風かおる
人が輝き
躍動するまち

まちひと百景

家でも勉強する習慣づけとして

12月26日（木）から２日間実施された冬休み学びの寺子屋。

全国学力・学習状況調査の中でも北海道は、学力、体力ともに全国平均を下回っており、深刻な状況となっている。

そのようなことから家庭での学習の習慣づけを目的に２年前より開催されている同事業に今年も多くの子ども達が参加した。

自ら参加した子どももいれば、親に言われて参加した子どももいたと思うが、その表情はとても楽しそうだった。

■ 特集「町民劇を支えた２人の女性」… 2
■ 平成26年成人式 … 3
■ とままえふるさと教育セミナーほか … 4
■ 苫前町消防団出初式ほか … 5
■ 健康ばんざい … 6
■ 国民健康保険ガイド … 7
■ 国民年金・川柳 … 8
■ 学びの広場 … 9
■ 住まいる情報 … 10～11
■ 議会だよりNo. 94 … 12～17
■ ちびっこギャラリー … 18

苫前町
議会だより
合併号

まちの人口

人　口／3,473人（男／1,639人：女／1,834人）
世帯数／1,636世帯　（１月31日現在）

URL:http://www.town.tomamae.lg.jp

特集

町民劇を支えた2人の女性

苫前商業高等学校３年生の花井美希さん・丹羽れいあさん

就職のため今回の作品で最後の出演

今回が最後の出演となった花井美希さん（写真：左）と丹羽れいあさん（写真：右）

とままえ町民劇実行委員会（松岡満雄代表）主催の第６回公演「ゴジラ」が12月14日(土)に公民館で上演され、町内外より約３３０名が来場、怪獣ゴジラと人間が結婚するという破天荒なストーリーを楽しんだ。

終演後のカーテンコールで挨拶をしたのが、ゴジラとの結婚を決意する一ノ瀬やよい役を演じた丹羽れいあさんとその妹ユミを演じた花井美希さんで、２人とも地元苫前商業高等学校の３年生で来春３月に卒業し、４月からは就職のため今回の作品が最後の出演となる。

２人は「稽古に全員がなかなか集まれず大変苦労したが、終わってホッとしている。春から就職のため最後の出演になるが、大変よい想い出になる」と途中言葉を詰まらせながら挨拶した。

とままえ町民劇は今回の公演で６回目の公演、以前の井の中のカワズたちから数えると12作目の作品となるが、これまでも課題となっていたのが、役者不足だ。

なぜ、彼女らは「演劇」というステージに自ら足を踏み入れたのかを、公演が終了して６日を過ぎた12月20日(金)にインタビューした。

Q：第６回公演を終えてどんな感想をもっていますか？

花井：第６回の公演がというよりは、これまで出演した全４回の公演が終わり、卒業したような感じです。

丹羽：スタッフやキャストに感謝の気持ちでいっぱい。短い間だったけど自分の中にはたくさんの想い出が残っています。

Q：そもそも演劇に出演することとなったきっかけを教えてください。

花井：演じることが好きで、第１回公演を観て、自分も参加したいと。

丹羽：花井さんに「やろうよ」と言われたのがきっかけです。

Q：演劇というと「恥ずかしいから出たくない」「セリフが覚えられない」など敬遠される傾向だと思いますが…

花井：好きなことなので恥ずかしい、やりたくないとは思わなかった。なのでセリフも覚えられました。

丹羽：最初は恥じらいと戸惑いがありましたが、一度やるともう一度やりたいと思うようになりました。

地球光りなさい！でマア役を演じた花井美希さん

Q：出演するとまちで声をかけられることはありませんでしたか？

花井：ルドルフを演じたときは、子供たちのヒーローになれました。

丹羽：「良かったよ」「やよいー」と声をかけられ、感激しました。

Q：とままえ町民劇への参加でこんなことが役立ったとか成長したかなと思うことはありますか？

花井：学校では学べない人とのコミュニケーションを学べました。

丹羽：引っ込み思案だけど、多くの人との関わりを通じ、自分からコミュニケーションをとれるようになりました。

Q：松岡満雄実行委員長が「忙しい中でも参加、役作りに工夫し、自分の能力を最大限に発揮しようとする姿を忘れないでほしい」また、前回の地球光りなさいの演出だった岩村直幸さんはお二人を「２人の参加は劇団員の励みとなり、停滞気味の活動にカツを入れてくれた」と言っていたし、今回ゴジラの演出の佐瀬正幸さんも「２人が参加したがっていると聞き、大人たちは腹をくくることができた。今年の町民劇の成功は、間違いなく君たち２人の存在があったお陰です」と言っていたよ。

花井：テストなどで練習に参加できない中、たくさんの方に支えていただいたので、感謝しています。

丹羽：練習に参加できないことが多く、迷惑もかけたけど、劇を通して学んだことをこれからしっかり活かしていきたいです。

Q：もし、町内で「僕も、私も演劇に参加したいけど…」と迷っている人がいたら、何と言って勧めてあげたい？

花井：一度見学に来てほしい。ユニークな人が多いので。

丹羽：成長できるので、迷っているなら参加した方がいいです。

Q：最後に一言あれば…

花井：私の青春時代はほとんど町民劇に捧げてきました。大好きな町民劇ぜひ続けてください。

丹羽：スタッフ・キャストの皆さんの温かい雰囲気が大好きです。町民劇がある限り応援し続けたい。

ゴジラでやよい役を演じた丹羽れいあさん

インタビューを終え、花井さんと丹羽さんは町民劇との関わりで様々な世代と接することにより、コミュニケーションや自分を表現することの大切さを学んだようです。

お二人の新たなステージでの活躍を応援したいと感じました。

自らの目標のために、日々の努力を！ －新成人おめでとう－

平成26年 苫前町成人式

1月12日(日)午後1時から公民館において平成26年成人式が挙行された。

今年の対象は男女あわせて38名のうち、この日は男性が16名女性が17名の計33名が新たに大人の仲間入りをはたした。

色とりどりの振り袖やスーツ、羽織・袴に身を包んだ新成人が受付を済ますと、久しぶりに再会した友人と笑顔で談笑する姿や友人同士で写真撮影する姿が見られた。

本年は成人式実行委員会のメンバーである新成人の奥山咲希さん、白府研人さん、西村理穂さんの司会進行で進められた。

式典では式辞で岡田裕幹教育委員長が「自らの人生の目標を掲げ、着実に前進するためには日々の努力が欠かせない。努力したことは自分自身の力になり、身についたものは無くならない。皆さんの活躍する場はどこにでもある。必要とされる人になってほしい。生まれ育った苫前は皆さんの心の中にある」と新成人にエールを送った。

新成人を代表し、佐藤凌一さんと檜谷早耶香さんが「厳しく育て、見守ってくれた両親をはじめ、多くの方々に感謝します。社会は非常に厳しい状況で幾多の困難にぶつかると思うが、くじけず、この町で学び、育った精神で自分を磨き、乗り越えていきたい」と力強く宣誓を行い、岡田委員長とガッチリ握手をした。

森利男町長は「たくさんの困難が待ち受けていると思うが、『元気、やる気、勇気』を持って負けずに頑張ってほしい。皆さんには様々な可能性が秘められている。それらを引き出す努力を忘れず、焦らず人生を大事に歩んでいってほしい」と、星野恭司町議会議長も「皆さんは日本人の一人として、我が日本を背負って立つ、豊かな教養、健全な精神と高い情操を合わせ持つ民主的な文化人たるべき責任を自覚した成年者とならなければならない。これからますます努力して、知性を磨き身体を鍛錬し、四十にして惑わざる立派な日本人になってほしい」と祝辞を述べた。

成人意見発表では現在札幌市で専門学校に通う山本将悟さんが「小学校でバレーボールと出会い、札幌の高校へ進学、部活のレベルが高くついていけるか不安だったが、新たな仲間と支え合い全国大会出場という目標も達成できた。そのときは両親の存在が大きく、挫折や悩んだときに支えてくれ大変感謝している。今は理学療法士となるべく勉強しているが、人に感謝される人間になりたい」と述べ、羽幌町内の銀行窓口で働く太田祥子さんは「銀行に勤めて3年、入行したときは銀行員としての振る舞いや仕事内容が呑み込めずつらいことばかりだったけど、お客様の財産を預かるという繊細な仕事に誇りを持ち努力しているつもりです。これからも恵まれた環境で過ごせることを糧として仕事に励んでいきたい」とこれからの意気込みと決意を述べた。

また、この成人式に当時新成人を受け持った学校の教諭も参加、教え子を目の前にお祝いのメッセージを送ると、笑顔を浮かべたり、涙ぐむ新成人も見られ、式典終了後も先生や友人を交え、談笑する姿があちらこちらで見られた。

子どもをネットトラブルから守るために　～平成25年度ふるさと教育セミナー～

12月5日(木)に公民館で平成25年度ふるさと教育セミナーが、PTA、学校関係者、地域住民などあわせて約120名が参加し開催された。

「子どもをネットトラブルから守るために」と題して講話が行われ、東京都内でネットパトロールなどを実施しているピットクルー株式会社の広田周平さんが講師を務めた。

広田さんは「現在、子ども達たちからインターネットを切り離すのは困難。携帯ゲーム機もインターネットの閲覧が可能であることから、使わせないのではなく、どのように使えば安全かを教えることが大切。インターネットへの書き込むことのリスクを子ども達へ理解させるためには、何でも相談できる家庭環境が必要である」と注意を促した。

少年少女剣士が熱戦！　～第39回平井杯争奪剣道大会～

12月7日(土)苫前小学校体育館で苫前町剣道連盟(三上敏行会長)主催の第39回平井杯争奪剣道大会が開催され、町内の少年少女剣士が熱戦を繰り広げた。

小学3年以下、同5・6年男子、女子、中高生の4部門及び団体戦で行われた大会には22名が参加した。

参加者は日頃の練習成果を発揮すべく、試合では気合いの掛け声が会場に響いていた。

結果は次のとおり（第1位のみ掲載）

【個人戦】
○小学3年以下の部
　第1位　竹橋光雅
○小学5・6年女子の部
　第1位　大矢根千尋
○小学5・6年男子の部
　第1位　坂川晃寛
○中高生の部
　第1位　今　昭人
【団体戦】
　東軍（4勝3敗4分け）

人間とゴジラが結婚？　～とままえ町民劇第6回公演「ゴジラ」～

12月14日(土)公民館でとままえ町民劇実行委員会(松岡満雄代表)の第6回公演「ゴジラ」が公演され、町内外より330名の来場により実施された。

「一ノ瀬やよいが結婚するのは怪獣ゴジラ？」娘の結婚を巡って繰り広げられる一ノ瀬家のドタバタ劇。演出の佐瀬正幸さん、舞台監督の松浦有恒さんは共に初めて。難しい脚本を見事に作り上げた。

今回は、子役も募集、5名の小学生も客席の後まで通る声で元気よく演じていた。

カーテンコールでは、地元の高校生2人がこれまでの思いを込めて挨拶。応援してくれ、鑑賞してくれたことを感謝するエンドロールも感動を後押し。出演者達は笑顔で観客を見送っていた。

年忘れは笑いで！　～とままえ落語会に柳家さん蕎師匠と林家正蔵師匠が来町～

12月22日(日)公民館で町舞台鑑賞友の会主催の恒例のとままえ落語会が開催された。

今回は毎度お馴染みの柳家さん蕎師匠に加え、元こぶ平の林家正蔵師匠が来町するとあって116名と多くの来場者が鑑賞した。

さん蕎師匠は、そばの値段をごまかそうとするが逆に多く代金を払ってしまう滑稽話「刻そば」と「ねずみ」を、正蔵師匠は、鼠小僧次郎吉がお金を恵んだばかりに母と姉が病気になってしまった人情噺「しじみ売り」と「新聞記者」を披露、2人の話術に会場も年の最後を笑いで締めていたようだ。

勉強終わらすぞ！　～冬休み学びの寺子屋が始まる～

児童・生徒が休み中に苦手科目の克服や家庭学習の習慣化を目的とした「冬休み学びの寺子屋」が12月26日～27日の2日間、苫前地区はとままえ温泉ふわっと、古丹別地区は町公民館で開催され、両地区の小中学生あわせて延べ133名の参加があった。

池田文敏教育長は開催に先立ち「この学びの寺子屋はあくまできっかけであり、継続して家庭学習する習慣づけとなるよう期待している」と挨拶した。

この後、低学年と高学年・中学生の2クラスに分かれ、学校の宿題プリントや市販の問題集など各自持ち寄った教材に取り組み、夏休み同様に学校教育支援員2名と小学校・中学校の教員数名がサポートし、参加者に問題の解き方のヒントなどを教えていた。

今年は災害のない年に！ ～苫前町消防団出初式～

1月5日(日)に北留萌消防組合苫前支署前で苫前町消防団出初式を開催、苫前・古丹別・力昼の各分団より57名の団員が参加し、新たな気持ちで地域防災への士気を高めた。

屋外式では、人員点呼に続き、瀬川信昭団長のほか森町長、星野町議会議長らが服装点検と閲団を実施、全団員が団旗を先頭に苫前市街地を分列行進した。

福祉センターでの屋内式では、森町長からは「家業の傍ら献身的な活動に感謝申し上げる。昨年は防災無線の整備や津波を想定した災害訓練などを実施したが、防災に向けた取り組みにも協力をいただき、災害のない年を」と激励した。

この後、永年勤続や優良団員への表彰状伝達が行われた。

今年も無事故で… ～苫前救難所出初式～

1月6日(月)に日本水難救済会苫前救難所（川村信介所長）の出初式が北るもい漁業協同組合苫前支所で開催された。

所員15名が整列、人員点呼を行った後、救命索発射銃(もやい銃)の発射訓練を実施。来賓等が見守る中、爆音を響かせながら銃を発射、無事目的場所に着弾した。

訓練終了後、とままえ温泉ふわっとで実施された屋内式では、川村所長が「町でも津波に備えるため避難訓練を実施したが、救難所としても北海道海難防止・水難救済センターのご指導を仰ぎながら、訓練に励み、海難無事故を続けていきたい」と今年の意気込みを述べた。

全町民がスクラムを組んで ～森町長の仕事始めの挨拶～

1月6日(月)に役場大会議室で森町長による仕事始めの挨拶が行われた。

森町長は「国と国の枠を越えたグローバル化の波は、本町の基幹産業である農林水産業を直撃、TPP（環太平洋経済連携協定）への参加問題など、本町の一次産業は大きな変革を求められている。また、4月からは消費税が8パーセントに引き上げられるなど重くのしかかってくる。本町のまちづくりについて充分議論を重ね住民が安心して暮らせるよう全町民が一緒になってスクラムを組み、高い志を持ち活力にあふれ、困難に向かって全力を尽くしてほしい」と奮起を求めた。

畳の上の格闘技の名にふさわしい熱戦を展開！
～第23回苫前町子ども交流カルタ大会・第34回留萌管内中部３町村子ども会かるた大会～

1月12日(日)に公民館で第23回目となる子ども交流カルタ大会が開催され、小学生12名、中学生4名が参加。小学生の部は4チームで総当たり戦で、中学生は交流試合を行った。

小学生の大会では、実力が均衡するようチーム分けがされた後、読み手の声に集中する姿が見られ、攻防の度に一喜一憂する光景が印象的であった。

大会の結果は次のとおり。

【小学生の部】

優勝：Aチーム
本田愛珠、吉村玲亮、檜森徹平

2位：Bチーム
高田佳歩、平井憲吾、伊藤　楓

3位：Cチーム
清水涼雅、檜森倫太、後藤大和

4位：Dチーム
鴨田佳尚、石井聡人、吉川唯華

また、1月19日(日)には初山別村で第34回留萌管内中部三町村子ども会かるた大会が開催、本町から小学生が2チーム、中学生が1チームずつあわせて9名が参加した。

小学生の部は、羽幌町、初山別村あわせ9チームで行われ、苫前町海チームは、準決勝、3・4位戦でも敗れ、第4位に。苫前町風チームは1回戦で勝利した天売チームと決勝で再度対戦、序盤リード場面もあったが惜しくも敗れ準優勝となった。

一方、中学生の部も4チームの総当たり戦で行われたが、勝利に恵まれず第4位となった。